

平成26年度 在宅医療・介護連携推進事業
コーディネーター養成研修会〔基礎編〕

研修会の目的

福井県健康福祉部長寿福祉課
在宅ケア推進グループ

研修会の目的

- 平成26年度から、全ての市町において、地域の実情に応じた形で、在宅療養者を支えるための体制づくりが本格的にスタート
- 一方で、現場サイドでは、「医療との連携をどのように進めていったらよいのか」、「初めてのことで何をするのか手探り」といった声
- 市町ごとに、医療・介護などの事業所の状況、住民が住んでいる場所など、地域差はあるものの、「まずは自らの地域の実態を知る」というところが最初の一步
- 公開できるような形でのマップ化や、関係機関のみで共有するためのリスト化など、郡市医師会等との話し合いの中で、それぞれに対応がとられている

研修会の目的

- 市町においては、こうした地域の状況を踏まえて、「在宅で療養したい」というニーズに応えるための体制づくりが求められる
- 「そもそもどのような考え方のもとで体制づくりを進めていくのか」、最初の講義において、そうした考え方の幹となる『地域包括ケアシステム』について学ぶこととしたい
- この地域包括ケアシステムの構築に向けて、特に重要な柱となるのが『医療との連携強化』
- しかし、市町においては、「医療行政の経験が乏しい」、「そもそも所管する課が決まっていない」といった状況も見られる

研修会の目的

- 国や県においても、「市町で、具体的にどのようなことを進めてもらうとよいのか」、分かりやすい形でビジョンを示すことが必要
- そこで、国では、平成23～24年度にモデル事業が行われ、福井県においては、平成22年度から坂井地区でのモデルづくりを実施
- その結果をもとに、福井県独自の補助事業として、『在宅医療・介護連携推進事業』を設け、「それぞれの市町単位で取り組んでいくべき基本的な動き（事業）」をお示ししている
- 午前と午後にまたがる講義において、この動きを付けていくに当たって、「市町としてはどのような役割・考え方を持って進めていくとよいか」、若干の事例も含めて学ぶこととしたい

研修会の目的

- また、具体的な動きを進めていく中では、在宅医療・介護に携わるさまざまな専門職のネットワークづくり「多職種連携・協働」がキーワードとなる
- 実際の体制づくりにあたっては、この「多職種連携・協働」の意味を知り、現場サイドでの交流（顔の見える関係づくり）・連携（情報共有～サービス提供の流れづくり）につながる事業を進めていくことが求められる
- 今回の研修では、福井県立大学の吉川先生から、グループワークの実践を含めた講義をいただき、今後の体制づくりに役立てていただきたい
- 最後に、すでに市町を訪問して個別に情報提供をしている部分もあるが、体制づくりを進める際に活用できるツールなどをご紹介したい